

「World University Sailing Championship 2018」出場報告書

レポート: 牧野碧依



「日本代表メンバー」

牧野碧依（ヘルムスマン）

高崎神風（ヘッドセール）

高山達矢（タクティシャン）

富田大貴（ピット）

森俊介（バウ）

1. はじめに

平成 30 年 9 月 1 日から 5 日にかけて開催された FISU(国際大学スポーツ連盟)主催の「World University Sailing Championship 2018」(大学セーリング世界選手権)に、九州大学ヨット部の OB メンバーで構成された「Connery」チームが日本代表として出場しましたので、以下の通り報告いたします。

2. 日本代表出場メンバー

出場メンバー 5 人全員が九州大学ヨット部の卒業生で構成されました。

牧野碧依 (ヘルムスマン)

高崎神風 (ヘッドセール)

高山達矢 (タクティシャン)

富田大貴 (ピット)

森俊介 (バウ)



<レース中の日本代表チーム>

3. 大会概要

● 大会期間

平成 30 年 9 月 1 日～5 日

● 開催地

Cherbourg, France (シェルブール、フランス)

- 大会日程

8 月 30 日：選手到着日、エントリー

8 月 31 日：選手到着日、事前練習、全体ブリーフィング、開会式

9 月 1 日：予選シリーズ 1 日目

9 月 2 日：予選シリーズ 2 日目

9 月 3 日：予選シリーズ 3 日目

9 月 4 日：決勝シリーズ 1 日目

9 月 5 日：決勝シリーズ 2 日目、閉会式

9 月 6 日：選手出発日

- 参加チーム

オーストラリア(2 チーム)、オーストリア、中国、フランス(4 チーム)、イタリア、日本、オランダ(2 チーム)、シンガポール(3 チーム)、韓国(2 チーム)、スペイン(2 チーム)

以上、合計 19 チームが参加しました。



<閉会式前の選手たち>

- レース形式

2 年前、4 年前の FISU 主催の同大会ではマッチレースが採用されていましたが、本大会では J/80 クラスを用いたフリートレースが行われました。1 レース 25 分ほどの短いターゲットタイムで、コースは主に上下 2 周流し込みフィニッシュでした。予選シリーズでは出場チームを 3 組のディビジョンに分け、その内 2 組が一緒にレースに出走り(約 12 艇ほ

ど)、船を交代しながらレースが進められました。3 日目の予選シリーズ終了時点での上位 11 艇がゴールドフリート、それより下位がシルバーフリートに振り分けられ、決勝シリーズが行われました。決勝シリーズではまずシルバーフリートのレースが 3 レース行われ、その後艇を乗り換えてゴールドフリートのレースが行われました。

- ペナルティ方式

ADDENDUM Q が適用されました。艇は赤旗を振ることによって艇を抗議でき、レースを監視する 4 艇の JURY による「on the water judge」によって判決が出されるペナルティーシステムが採用されました。通常のペナルティーターンは 1 回転となっていました。出走艇数が 11 艇程度かつ、艇団がコンパクトになっているせいか、レース中のどの場面においても近くにジュリーがいる感覚でした。



＜上マーク回航を監視する JURY ボート＞

- レース運営

非常にテンポよくレースが実施されました。レースが終了してから次のオレンジ旗が掲揚されるまでの間隔は数分で、水分補給などをしているとすぐに次のレースが行われるといった印象を受けました。そのためか予選シリーズでは合計 21 レース、決勝シリーズではシルバーフリートが 6 レース、ゴールドフリートが 8 レースという多くのレースをこなすことができました。スタートラインは上有利の時も、下有利の時もあり、運営はバイアスをかけずにイーブンに打とうと心がけているように感じました。非常に短いコースであったにもかかわらず、頻繁にコース変更が行われ、公平なレースが行われました。また、毎朝 8 時半よりブリーフィングが開かれ、運営から天気予報や風・潮の情報、1 日のスケ

ジュールなどが説明され、船のドローもこのブリーフィングで行われました。またこの場でアンパイアへの質問もすることができました。選手は運営とコミュニケーションをとる機会がしっかりと与えられており、全員がストレスフリーでレースに臨んでいる印象でした。



＜毎朝のブリーフィングの様子＞

4. 最終成績

World University Sailing Championship 2018 の成績は以下の通りです。

- 予選シリーズ(1日目～3日目)



World University Sailing
Championship 2018



RANKING OF QUALIFYING STAGE AFTER 21 RACES

CREW	IDENTIF	CATE GORY	SKIPPER	POINTS	RANG	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21
AUSTRALIA 2	AUS2	OPEN	GRIMES Thomas	36	1	1	3			7	1	7	2			4	2	2	4	1	3	1	5			
FRANCE 3	FRA3	WOMEN	BONAFIOUS Elodie	44	2	5	4	5	1			5	6			1	3				1	5	4	2	2	7
SPAIN 2	ESP2	OPEN	BASADRE LÓPEZ Alberto	51	3					1	3	1	6	1	OCS	3	1		3	2	11			6	12	1
FRANCE 2	FRA2	OPEN	LETOUZE Pierrick	51	4	2	2			4	3				8	2	2	6				5	2	1	8	6
SINGAPORE 1	SIN1	OPEN	YEO Jonathan	53	5	6	5	4	6			2	4	6	9				6	1	2			3	5	3
AUSTRALIA 1	AUS1	OPEN	PIETRO-LOW Ethan	58	6	10	7	2	5						2	3	5	1	1	6	6	7	3	11		
JAPAN	JPN	OPEN	MAKINO Aoi	71	7			3	11	3	2	11	8	1	5			10	7	12				5	1	4
CHINA	CHN	OPEN	ZHOU Chuancheng	71	8	9	12	9	8			6	1			7	4	4	8	4	2	6	3			
NETHERLANDS 1	NED1	OPEN	VAN BEEK Jelmer	71	9	11	9			2	7				5	4	12	8	7	3	3			4	3	5
FRANCE 1	FRA1	OPEN	BOUCHET Nicolas	73	10			6	4	5	10	4	5			9	10					6	7	2	9	4
NETHERLANDS 2	NED2	WOMEN	BOS Kim	81	11	4	1	10	2						10	6	3	9	5	10	8	8	7			
ITALY	ITA	OPEN	GRAZI Sebastiano	86	12			8	7	6	4	3	7			10	5					9	10	9	1	9
SPAIN 1	ESP1	OPEN	LORENZO ROMAN Alejandro Pablo	95	13	7	8			10	9	9	3	4	10			11	5	10					7	6
FRANCE 4	FRA4	WOMEN	RIOU Margot	115	14			7	10	9	11	10	9			8	7	8	11	9	10	11	6			
SOUTH KOREA 1	KOR1	OPEN	LEE Nakyung	117	15	8	10			8	11				12	12	6	11	9	5		11	4	12		
SINGAPORE 2	SIN2	OPEN	LIM Jian Yang Edward	122	16			11	9	11	5				11	7	11	11				4	9	10	12	11
AUSTRIA	AUT	OPEN	PUKKANDL Matthias	126	17	3	6	12	12					DSQ	OCS	9	8					12	11	8	11	8
SINGAPORE 3	SIN3	WOMEN	GOH Kailing Jessica	128	18	12	11			11	8	8	10	7	11										10	10
SOUTH KOREA 2	KOR2	WOMEN	KIM Dongmin	163	19			13	13	12	12	12	11	13	DSQ				13	12	13				13	13

GALLIOT Roland, Président du Comité de Course

SCHUCHARD Rudiger, Président du Jury

MAUDUIT Jean-Paul, Directeur de Course

BOUCHARD Alexandre, Commissaire aux Résultats

- 決勝シリーズ(4日目～5日目)

決勝シリーズでは予選シリーズの順位が1レース分の得点(カット不可)になりました。

Général définitif TOUS GROUPES après 8 courses.

Directeur de Course : MAUDUIT Jean paul

Commissaire aux Résultats : BOUCHARD Alexandre

19 inscrits

Page 1

Place	Identif	Concurrent	Club ou Pays	Grp	Pts Ret	Pts Tot	Acquis	Co. 1	Co. 2	Co. 3	Co. 4	Co. 5	Co. 6	Co. 7	Co. 8
1	AUS 2	AUS 2 GRIMES Thomas (AUSTG18) ROZENAUERS Nicholas EVANS Mitch GRIMES Jessica	AUSTRALIE	A	20.00	26.00	1.00	1	2	3	6	5	1	6	1
								1.0	2.0	3.0	—6.0	5.0	1.0	6.0	1.0
2	FRA 2	FRA 2 LETOUZE Pierrick (FRAPL64) COUSIN Paul ZUGOLARO Marie (FRAMZ2) RICHER Arthur (FRAAP28) PAIN Swann (FRASP21)	FRANCE	A	22.00	28.00	4.00	5	1	2	1	1	6	4	4
								5.0	1.0	2.0	1.0	1.0	—6.0	4.0	4.0
3	FRA 3	FRA3 BONAFOS Elodie (FRAEB25) KERAMPHELE Morgane (FRAMK5) GUILLLOU Anne KERDRAON Anna ACKER Louise (FRAAL40)	FRANCE	A	28.00	37.00	2.00	3	5	7	9	3	3	3	2
								3.0	5.0	7.0	—9.0	3.0	3.0	3.0	2.0
4	JPN	JPN MAKINO Aoi (JPNAM6) MORI Shunsuke TAKASAKI Kamikaze TAKAYAMA Tatsuya TOMITA Daiki	JAPON	A	39.00	50.00	7.00	4	7	8	5	11	4	1	3
								4.0	7.0	8.0	5.0	—11.0	4.0	1.0	3.0
5	NED 1	NED 1 VAN BEEK Jelmer (NEDJV47) PULMAN Wietse VAN ROOIJEN Jorden VOS Rutger	NETHERLANDS	A	39.00	48.00	9.00	8	3	9	3	4	2	5	5
								8.0	3.0	—9.0	3.0	4.0	2.0	5.0	5.0
6	AUS 1	AUS 1 PIETRO-LOW Ethan (AUSTEP7) HUNT Hayden BRIGGS Andrew BOULDEN George	AUSTRALIE	A	42.00	52.00	6.00	2	8	5	2	2	9	10	8
								2.0	8.0	5.0	2.0	2.0	9.0	—10.0	8.0
7	CHN	CHN ZHOU Chuancheng (CHNCZ7) WANG Tong LI Jiaxing TANG Awei HUANG Jiyun	CHINE	A	46.00	57.00	8.00	6	4	1	7	9	5	11	6
								6.0	4.0	1.0	7.0	9.0	5.0	—11.0	6.0

Championnat du Monde Universitaire 2018

Page 2

Place	Identif	Concurrent	Club ou Pays	Grp	Pts Ret	Pts Tot	Acquis	Co. 1	Co. 2	Co. 3	Co. 4	Co. 5	Co. 6	Co. 7	Co. 8
8	SIN 1	SIN 1 YEO Jonathan (SINJY3) YEO Jeremiah TAN Jen-E TAN Daniel Norman J LAU Matthew Scott	SINGAPORE	A	52.00	62.00	5.00	7	6	10	10	8	7	2	7
								7.0	6.0	—10.0	10.0	8.0	7.0	2.0	7.0
9	ESP 2	ESP 2 BASADRE LOPEZ Alberto (ESPAB52) FIGUEIRAS ALONSO Kevin RODRIGUEZ CAMPOS Rodrigo MARTINEZ LAGO Pedro	SPAIN	A	58.00	69.00	3.00	11	9	6	4	7	10	8	11
								—11.0	9.0	6.0	4.0	7.0	10.0	8.0	11.0
10	FRA 1	FRA1 BOUCHET Nicolas (MONNB1) CONNAN Antoine (FRAAC79) HULIN Baptiste (FRABH18) ROCHE Hugo (FRAHR16)	FRANCE	A	65.00	76.00	10.00	10	10	4	8	6	11	7	10
								10.0	10.0	4.0	8.0	6.0	—11.0	7.0	10.0
11	NED 2	NED 2 BOS Kim (NEDKB10) KUIPER Rosalijn VAN DER ENDE Maaike VAN LOOSDRECHT Arianne VAN VEEN Laura	NETHERLANDS	A	78.00	89.00	11.00	9	11	11	11	10	8	9	9
								9.0	—11.0	11.0	11.0	10.0	8.0	9.0	9.0
12	ITA	ITA GRAZZI Sebastiano (ITASG40) CASAEMENTI Lorenzo GRAZZI Federico MARZOCCHI Gianluca VANNINI Alexandre	ITALIE	B	21.00	25.00	12.00	2	4	1	1	1	4		
								2.0	—4.0	1.0	1.0	1.0	4.0		
13	FRA 4	FRA4 RIOU Margot (FRAMR36) HILAIRE Clementine (FRACH27) WESSELS Louise JAFFRAIN Blandine RAGUENEAU Tiphaine (FRATR30)	FRANCE	B	25.00	33.00	14.00	3	1	3	8	2	2		
								3.0	1.0	3.0	—8.0	2.0	2.0		
14	ESP 1	ESP 1 LORENZO ROMAN Jorge (ESPJL36) GARCIA LINARES Pedro MARTINEZ DE LA COL Estaban PREGO MENOR Alexandro	SPAIN	B	26.00	34.00	13.00	1	2	2	3	5	8		
								1.0	2.0	2.0	3.0	5.0	—8.0		
15	SIN 2	SIN 2 LIM Jian Yang Edwar (SGPEL1) TEO Ryan HOW Yi-Lon LIM JUN JIE Lionel TAY Wei Jie Joel	SINGAPORE	B	31.00	36.00	16.00	5	3	5	2	4	1		
								—5.0	3.0	5.0	2.0	4.0	1.0		
16	AUT	AUT PUXKANDL Matthias (AUTMP27) HAGINGER Xavier SABLATING Johannes WENGER-OEHN Luis	AUTRICHE	B	41.00	47.00	17.00	4	6	4	5	6	5		
								4.0	—6.0	4.0	5.0	6.0	5.0		

Championnat du Monde Universitaire 2018

Page 3

Place	Identif	Concurrent	Club ou Pays	Grp	Pts Ret	Pts Tot	Acquis	Co. 1	Co. 2	Co. 3	Co. 4	Co. 5	Co. 6	Co. 7	Co. 8
17	KOR 1	KOR 1 LEE Na Kyung (KORN12) KIM Jiyeon LEE Danbi HONG Minhyeok PARK Dasom	COREE	B	44.00	51.00	15.00	7	7	6	6	3	7		
								—7.0	7.0	6.0	6.0	3.0	7.0		
18	SIN 3	SIN 3 GOH Kailing Jessica (SGPJG1) GOH Rebecca LEE Melissa Qin YEO Mei Pying YOM Jing Yi TAN Evangeline	SINGAPORE	B	49.00	57.00	18.00	6	5	7	7	8	6		
								6.0	5.0	7.0	7.0	—8.0	6.0		
19	KOR 2	KOR2 KIM Dongmin (KORDK6) CHOI Bowon KIM Soojong MOON Jiseon NAM Daun	COREE	B	51.00	60.00	19.00	DNC	DNC	DNC	4	7	3		
								—9.0	9.0	9.0	4.0	7.0	3.0		

日本チームは予選シリーズを 7 位で通過してゴールドフリートに残り、決勝シリーズを経て 4 位という結果になりました。メダル獲得を逃し悔しい気持ちもありますが、レースを重ねるごとにチームの成長を感じ、非常に有意義なレガッタになりました。

5. 所感

まず、他国選手の体格の大きさに圧倒されました。日本チームは大会前の増量によってウェイト的には他チームと変わらない状態で試合に臨むことができ、走りでは対等に戦えましたが、1 人当たりのフィジカルの差は歴然でした。本大会では最も吹いても 12~14knot 程度で、そこまでフィジカルを求められないコンディションでしたが、より強風のコンディションで彼らと対等に戦っていくにはより一層のトレーニングとウェイトが必要だろうと感じました。

また、他国チームのレベルの高さとこの大会に対する並々ならぬ熱意を感じました。本大会で優勝したオーストラリアのヘルムスマンは、マッチレースの World ランキング 30 位、5 位のオランダのヘルムスマンは 17 位と、世界的に非常に力のある選手が集まり、とても刺激的なレースになりました。彼らのキールボートに対する経験値は私達をはるかに上回っていたので、大会が始まってからは常に技術を盗もうと必死でした。特にスタート前のハンドリングには学ぶ点が多くあり、彼らの真似をする中で、私自身のマッチレースの経験と、良いスタートに必要なフリートレースでのテクニックを結びつけることができました。また、ほとんどの国にはコーチが引率しており会場のいたるところで選手とコーチと一緒にミーティングをしている光景を目の当たりにしました。レースを客観的に見てアドバイスをくれる存在というのは非常に羨ましかったです。私達はメンバー 5 人のみの遠征でしたので、トラッキングシステムと船に取り付けた GOPRO の映像のみが自らを客観視できるツールでした。本大会ではトラッキングシステムの制度が非常によく、またリアルタイムで更新されていたので、レースが終わった後すぐに海上で今のレースのトラッキングをみて反省をし、次のレースにその情報を活用することができました。私はヘルムスマンとして、レースが終わって宿に帰ってから、撮影した動画を用いて船のトリムに関する反省をしていました。

レース中、海外の選手はどんなケースでも(たとえ明らかに相手がルール違反をしていないとわかるようなケースでも)迷うことなくプロテストを高頻度で出してくるのが印象的でした。もちろん JURY によって判決は出されるので公平に判断されるのですが、今まで出会った多くの日本人セーラーと比べて、主張の強さを感じました。またレベルの高い海外の選手はルールのギリギリを攻めるプレイが多く、非常に勉強になりました。また私は本大会で 1 度、メインセールのトップがブラックバンドを越えているということで 1 人のアンパイアからプロテストをされ、レース後に海上審問に招集されてしまいました。そこで人生で初めて英語による審問を経験しました。「抗議者はどこでメインの上がりすぎを視認したか」、「抗議者はレース中にもマストトップを確認したか」、「証人はいつ何を見たか」などという質疑を経て、証拠不十分により何

とかペナルティは避けることができましたが、私自身あまり良い受け答えができたとは思いませんでした。英語による審問はやはり練習しておかないと筋道を立てて説明や質問をするのは難しいと感じました。

海外のレースならではのことは思うのですが、他チームの選手との交流の機会が多くありました。もちろん海上ではシビアに戦うのですが、その日のレースが終わって陸に帰ってきたら握手をし合ってお互いの健闘をたたえ合い、一緒にビールを乾杯するなど、多くの選手がフレンドリーで大会全体から非常に良い雰囲気を感じました。

私達は本大会 4 位に終わりましたが、メダルを獲得した 3 艇との決定的な差は、スタートの確実性とダウンウィンドのボートスピードにあったと思います。彼らはスタートを失敗することがほとんどなく、(失敗したとしてもすぐにリカバリーでき、)スタート後の数分でしっかりとバウを出した後、必ず主導権を握る側のコースを展開し、上マーク回航順位が常に上位で安定していました。私達も 4 日目終了時にして彼らの真似をしながら発見したスタートのテクニックにもう少し早く気付ければといった後悔があります。また、本大会 3 位になったフランスの Women チームは特にダウンウィンドのスピードが際立って速く、角度もあり、上マークですぐ後ろを回航されるとほとんどの場合抜かれるといった結果になってしまいました。彼女たちはこのスピードを武器に、どんなに 1 上マークが悪かったとしても必ずダウンウィンドで順位を追い上げて成績を安定させていました。閉会式後のパーティーで話を聞くと、体重が少し軽いこともありましたが、彼女たちは J/80 を 1 年中練習しているらしく、私達よりも船の特性を理解していると感じました。彼らに勝つためにはやはり更なる練習と研究が必要だと感じました。

6. おわりに

本大会の出場にあたり、JSAF(日本セーリング連盟)よりエントリーフィーの補助と、JYMA(日本ヨットマッチレース協会)より支援金をいただきました。加えて、九州水域の「Windward V」オーナーの津田先生、「Team Enterprize」オーナーの大石先生、「TRAM」の蒲谷様よりご協賛をいただき、格別のご支援を頂きました。また、高崎選手のご親族の皆様からもご支援を頂き、「SAILFAST」の後藤様からは海上でのジャケットとトラウザーを提供していただきました。また、九州大学ヨット部 OB 会である帆友会の岡部会長と平畑監督にも出発前にご支援を頂きました。本当に多くの方に支えていただき、選手一同心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

今回の国際大会出場経験によって、またどこかの海外レースでリベンジしたいという思いが強くなりました。私達の弱点をまた見つめなおし、これからも精進していきたいと思います。この度は本当にありがとうございました。